

令和3年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者 評価 (3月14日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と 課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒一人ひとりに応じた指導と生徒の主体性を育む学習指導を推進する。 ②福祉マインドを培う教育活動を推進する。	①ICT 機器等を活用して計画的に主体的・対話的で深い学びを実現する授業を実践する。 ①コロナ禍においても、生徒の学びの保障のために、ICT 機器を有効に活用する。 ②近隣の横浜市立日野中央高等特別支援学校との相互連携により「総合的な探究の時間」の内容を充実させる。また、生徒相互の交流をより一層推進する。	①職員に向けて Classi の活用研修会を行い、ICT 機器を利用した課題配信や小テストの実施方法を周知する。 ①ICT 機器や指導法に関する校内研修会を通して、ICT 機器について教員の理解を深め、積極的に活用する。 ②総合的な探究の時間において、課題設定や探究活動を通して横浜市立日野中央高等特別支援学校との相互連携を図り、生徒相互の理解を深め、福祉マインドを培うことができるよう取り組む。	①前年度と比較して、各教科での ICT 機器の利用率が増加したか。 ①ICT 機器を活用し、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善に取り組み、生徒による授業評価の結果が向上したか。 ②横浜市立日野中央高等特別支援学校との相互連携を通して、「福祉探究」の内容を充実することができたか。	①分散登校中のオンライン授業を契機に Chromebook を活用した授業実践が増え、ノウハウの共有も進んだ。HDMI ケーブルの利用数も年度当初に比べ 1.4 倍以上 (35 時間→50 時間以上) 増加した。 ①生徒による授業評価結果を昨年度と比較すると、大きく向上した項目はないものの、問 4 (できるようになったという実感) の項目で、やや結果が向上した。Google Workspace for Education、Classi 活用に係る校内研修を 2 回実施。ソフトの使い方、各教科での活用方法について教職員全体で共有を図り、理解を深めた。緊急事態宣言の解除までグループワーク等が制限され、対話的な学びの実践には課題も残った。 ②横浜市立日野中央高等特別支援学校との交流及び共同学習において、1 学年の「福祉探究」を実施した。今年度はほぼ年間計画通りに実施できた。	①生徒の学習実態を踏まえた、教科横断的な活用方法の共有と改善。 ①機器活用のノウハウとともに備品の充実など、より使いやすい環境の整備。 ① ICT 活用により生徒の主体的・対話的な学習につながる先進校の実践事例等を共有できる校内研修の計画と実施。 ②「福祉探究」は 1 学年のテーマであり、2・3 学年の学習活動において福祉マインドの育成につながる活動が少ないこと。	①②生徒の実情に即した ICT 機器の効果的な利活用ができてきている。 ②交流及び共同学習を通し、双方にとって有意義な成果を導いている。「福祉探究」をどのように 2・3 学年につなげるか、地域の学校として協力したい。(横浜市立日野中央高等特別支援学校)	①ICT を活用した様々な授業実践が行われるようになった。次年度以降、ICT 利活用授業研究推進校として、先進校の取組を踏まえ、実践を深化させる校内組織の整備と運営が課題である。 ②1年ぶりに「福祉探究」を計画することができた。全学年で「福祉マインド」を育成する必要がある。	①他教科での ICT 活用法や先進校の実践事例等を教員間で共有し、組織的な授業改善につながる校内研修の充実を図る。 ②文化祭での交流など横浜市立日野中央高等特別支援学校との関係を深める。 ②3年間を通して「福祉マインド」を育成する教育課程を編成する。
2 生徒指導 ・支援	豊かな人間性と社会性を育み、生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図る。	①日頃から授業へ臨む姿勢や SNS 等への注意喚起を通し、規範意識の醸成を図るとともに、支援を必要とする生徒のための教育相談体制を充実させる。 ②生徒が主体的に企画・運営を行う行事へと確立する。	①SNS 等のルールを周知徹底する。 ①校内外との連携をさらに図り、教育相談体制を確立し、一人ひとりに適切な支援を行う。 ②Google Classroom 及び Classi 等を活用し、一層生徒の主体的な取組を支援することにより、生徒・学級の意見を反映し、生徒会、学級、学年及び部活動の連携を活性化する。	①SNS 上のトラブルを未然に防止できたか。 ①全職員で教育相談体制を理解、確立することができたか。一人ひとりに適切な支援を行うことができたか。 ②生徒会本部や各委員会等から生徒へ向けた発信を定期的に行うことができたか。	①SNS に係るトラブルは見受けられず、一定程度の成果を上げている。 ①教育相談コーディネーターを中心とする組織的な相談体制が構築され、適切な支援が実現されている。 ②感染対策に配慮しながら文化発表会・体育祭を実施した。	①SNS に係るトラブルは顕在化していないが、常に注意深く生徒の観察に努める。支援を必要とする生徒の数が増え、外部人材との連携による対応が求められている。	②制約下での文化発表会・体育祭は仲間意識や達成感が育まれ素晴らしい。部活動による生活規範の醸成にも期待する。	①SNS に係るトラブルを未然に防ぐ取組が必要である。 ①教育相談への全職員の理解は深まっているが、相談件数が増加している。	①今後も生徒の観察に努める。 ①全職員による教育相談体制及び外部人材との有効な連携によって対応する。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者 評価	総合評価 (3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(3月14日実施)	成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒の主体的な活動を通して、進路実現・自己実現を果たす力を育成する。 ②進路指導計画の充実を図る。	①3年間を見通した進路計画の下、生徒が自己実現に向けて、学び実践する場を提供し進路を自ら切り開く姿勢を育成する。 ①大学入試変革に対応した進路指導を実践し、情報提供等行うことにより生徒の主体的で適切な進路選択に向けた指導を推進する。 ③キャリア・パスポートを有効活用する。	①定期的な外部試験による実力の定着、学習クラウドサービス Classi を効果的に活用し、生徒の進路実現へ向けて取り組む。 ②LHR 等で進路別ガイダンスを行うなど生徒の進路選択へ計画的なキャリア教育に取り組む。 ③Classi のポートフォリオ機能を活用し、定期的に記録を残す。	①Classi を効果的に活用し、生徒の実力の向上と進路実現ができたか。 ②計画的にキャリア教育に取り組むことができたか。 ③定期的に記録を残すことができたか。	①外部試験後に結果分析会を行い、生徒の現状を把握することができた。 ③生徒一人ひとりのキャリア意識の育成について、学期の初めと終わりに記録を残すことができた。	①分散登校時にも Classi を活用することができたが、自学自習にまでは定着ができていない。	①②③進路指導の成果が着実に進められている。	①Classi に係る生徒向けアンケートでは、7割の生徒が勉強の役に立ったと回答しており、残り3割の満足度を上げる必要がある。	①年間のLHR 計画の中に生徒向けの分析会を設け、生徒の実力向上、進路実現への意欲の向上につなげる。
4	地域等との協働	地域との連携・協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。	①地域連携活動及びボランティア活動を活性化させ、「福祉マインド」、「ともに生きる」こころを育む。 ②年度当初より教職員・生徒の防災意識を高めるとともに、地域区町と連携した防災体制を構築する。	②ICT 機器を活用した災害図上訓練を実施することにより、コロナ禍においても効果的に生徒の防災意識を高める。 ②地域と連携した防災訓練に積極的に参加する。	②ICT 機器を活用して、効果的に災害図上訓練を行うことができたか。 ②前回に比べて参加人数を10%増やし、防災訓練について地域との連携を深めることができたか。	①各学年、部活動による地域清掃を実施した。 ②ICT 機器を活用し災害図上訓練に取り組んだ。 ②コロナ禍の為地域と共同した防災訓練は実施できなかった。	②図上訓練に加え実地訓練を検討する。	①②今後も継続して、地域の学校や町内会等と連携し、防災訓練や生徒間交流などを進めてほしい。	①②感染対策を講じながら実施したが、今後ウィズコロナにおける有意義な活動を検討する必要がある。	①②来年から始まる生徒1人1台端末の利点を生かして、地域連携活動や防災訓練に取り組む。
5	学校管理 学校運営	①生徒が安心して通える、安全で信頼される学校づくりを進める。 ②教員の働き方改革を推進するための教職員の意識改革を図る。	①生徒の安全面に最大限配慮した環境を整備する。 ②タイムマネジメントを確立し、教員にとって健康で働きやすい職場づくりを推進する。 ③不祥事防止について教職員の意識を高める。	①新型コロナウイルス感染症の拡大防止に取り組むため、生徒への基本的な感染防止対策の指導を徹底する。また、消毒液等を使い校内清掃に取り組むことにより、校内衛生及び美化に努める。 ①学校施設及び備品を適切に管理することにより、事故防止に努める。 ①災害時の安全に配慮した避難訓練や下校訓練を企画・実施する。 ②Teams の活用等 ICT 機器を活用することにより、業務の効率化を図る。 ③不祥事の根絶に向けた教職員の意識をさらに高めるため、事故・不祥	①感染症予防の習慣が生徒に浸透したか。緊急な消毒等の実施に際しても、迅速に取り組むことができたか。生徒に基本的な感染防止対策の指導を徹底したか。 ①清掃用具の充実及び清掃活動を徹底することにより、安全に学校施設及び備品を維持することができたか。 ①実際の災害を想定しながら、防災意識を高めることができたか。 ②業務の効率化を図ることができたか。	①清掃及び消毒作業等により、校内衛生及び美化に取り組んだ。 ①地震を想定した避難・下校訓練を実施した。 ③事故・不祥事防止の研修の開催にあたり外部講師を招聘し取り組んだ。	①②生徒の安心安全を図るため、継続して取り組む。 ③風通しの良い職場づくりに継続して取り組む。	①②コロナ禍における子どもの変化について協議会で情報交換していきたい。 ③教職員の働き方改革について具体的な変化がわかるとよい。	①②生徒の安心・安全に配慮した環境を整備することにより、感染症予防及び衛生環境の向上等に取り組むことができた。 ②教職員の働き方改革の進捗をわかりやすくする。	②職員の働き方改革について、わかりやすい目標等を設定する。 ③不祥事防止会議を適切に開催し、研修や点検に取り組み、不祥事ゼロプログラムの達成に努める。

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者 評価 (3月14日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と 課題	改善方策等
			事防止に関する研修会を実施する。	③教職員の事故・不祥事防止への意識が高まったか。				③引き続き不祥事の根絶に向けた意識向上に努める必要がある。	